

平成24年度出雲農林高等学校の学校評価について

島根県立出雲農林高等学校
教頭 坂根 一 則

I 学校評価の必要性と目的

今日、学校の裁量が拡大し自主性・自立性が高まる中で、その教育活動等の成果を検証し、必要な支援・改善を行うことが大切になってくる。このことにより、児童生徒がより良い教育活動等を受けることができるように、学校運営の改善と発展をめざし、教育水準の向上と保障を図ることができる。また、学校運営等に対する保護者等の関心が高まる中で、学校が適切に説明を行い、共通理解をもち、相互の連携と協力の促進を図らなければならない。これらのことから、学校評価により本校教育の現状・成果・課題等を明確にし、それらを次年度の目標や実践に反映させ、教育効果を増進させることにより、本校教育活動の充実に資することを目的とする。

II 本校の目的と学校目標

本校は、「教育基本法の精神に則り、高度な普通教育及び農業に関する専門教育を施し、農業各分野の将来のスペシャリストとなり、国家、社会に貢献できる人物を育成する」ことを目的としている。そして、目的を達成するために、教育課程を定め、人的、材的、物的分野の経営管理を適切に行ないながら、本校の教育目標である 一、自他の敬愛 二、心身の陶冶 三、知性の涵養 四、技能の鍛錬 五、勤労の尊重 六、学園の平和 の達成をめざしている。この本校の目的と目標が達成されているかどうかについて、次の方法により学校評価を行った。

III 学校評価の方法について

平成24年度教育基本方針に基づいて設定した学科目標、学年目標、教科目標などの目標や手立て及びその達成をめざした実践について、全教職員による自己評価による学校関係者評価を行った。また、全校生徒及び全保護者へのアンケートにより、『達成度』や『満足度』を「A～Dの数値」で表した。

更に、学校評価の結果をホームページ、PTA総会・役員会での説明や、学校評議員会等の場面をとらえて説明を行うことで、開かれた学校づくりを行っている。以上の点を基本として、平成24年度の本校における学校評価の状況を報告する。

1 教科・科目・特別活動を中心とした自己評価(目標についての評価)

- | | |
|-------------------------|-------------|
| (1) 平成24年度教育基本方針に基づいた評価 | 別表1・2 |
| (2) 重点実践項目に基づいた評価 | 別表3 |
| (3) 各学科の目標に対する評価 | 別表4の1～4の4 |
| (4) 各学年の目標に対する評価 | 別表5・6の1～6の3 |
| (5) 学校評価保護者の評価 | 別表6 |
| (6) 学校評価学校評議員の評価 | 別表7 |
| (7) 各分掌目標に対する評価 | 別表8 |

2 出雲農林高等学校の現状を示す具体的な数値などによる評価

平成21年度から平成24年度の4年間の現状を下記の項目について具体的に数値で表し、評価を行った。

(1) 意欲ある志願者の確保について

中学校の生徒の本校志願状況等を下記の項目について過去4年間の数値を示した。

・中学校説明会及び本校訪問者回数 ・体験入学参加者数・中高連絡会参加校数・推薦者数志願状況

(2) 入学者の学校適応について

本校に入学した生徒の活動状況等を下記の項目について過去4年間の数値を示した。

・入学前指導参加者数 ・集団宿泊研修(内容を含む) ・学年集会(内容を含む)
・一年生の保健室利用 ・SC相談回数

(3) 在学者の状況

在学生の学校生活状況等を下記の項目について過去4年間の数値を示した。

- ・出席率、欠席、遅刻、早退者数・長欠者(30日以上)、考查成績(欠点保有者数)
- ・問題行動数・中途退学者、休学者、在籍者、進路変更者数・保健室利用者数・学校満足度

(4) 学校訪問者数

本校の訪問者状況等を下記の項目についてまとめて数値を示した。

- ・PTA総会等出席者数
- ・学校視察等訪問者数
- ・ふれあい動物広場訪問者数

(5) 生徒活動

本校の生徒の活動状況等を下記の項目についてまとめて数値で示した。

- ・部活動及び農業クラブ活動成果(表彰者数)
- ・部活動所属者数
- ・図書貸し出し数

3 生徒による自己評価と学校評価

全校生徒を対象に大きく「自己評価」及び「学校評価」についての項目を定め実施した。

(1) 自己評価は生徒自身の取り組みに対する評価とする。

・学習活動

・学校生活

(2) 学校評価は学校全体の取り組みに対する評価とする。

- ・普通教科の授業で充実して取り組めた科目
- ・専門科目の授業で充実して取り組めた科目
- ・学校生活
- ・施設
- ・安全管理

4 外部評価について

(1) 学校評議員による評価

年4回実施した学校評議員会において、行事視察及び生徒による活動報告及び学校で取り組んでいる様々な事業等の報告を実施した。最終の学校評議員会においては、自己評価の結果及びPTA役員・学級評議員による学校評価の結果等を示すとともに、本年度の特色ある取組についての説明を実施し、直接様々な意見や提案等をいただき、最終的には文書で評価していただいている。

- ① 学校経営の取組
- ② 学科の取組
- ③ 生徒の活動
- ④ 施設設備
- ⑤ 学校への要望(文書記述)

IV 評価結果について

1 平成24年度教育基本方針に基づいた評価と結果について

教育基本方針に基づいて、教科・科目・特別活動・総合的な学習を中心とした自己評価(目標についての評価)を昨年に引き続き4項目について全教職員が評価を行った。

(1) 評価の方法

それぞれの目標についての『達成度』として「A～Dの数値」で表した。

- A: 良い・達成できた。
- B: 概ね良い・ほぼ達成できた。
- C: あまり良くない・あまり達成できなかった。
- D: 良くない・達成できなかった。

(2) 評価結果

これらの結果を下記の2つの表にまとめた。

- ① 平成24年度教育基本方針1・2 別表1
- ② 平成24年度教育基本方針3・4 別表2

(3) まとめ

教育方針の達成度は、「達成できた」「ほぼ達成できた」が平均 91.0 %で-3.6 ポイントあった。特に、特別活動の指導指針や活動目標を具体的に示し、生徒の主体的な活動参加を促進することができたかについて達成度が低くなった。全体的としては、学習活動に落ちついて、意欲的に取り組んでいる生徒が多くなっているが、一部には、授業への集中や意欲に欠ける生徒がいることが課題であり、個々の生徒に応じたきめ細かい指導が大切である。

【教育基本方針のまとめ】

教育基本方針	A 人	B 人	C 人	D 人	達成できた (A+B)	昨年度 (A+B)
① 学科教科の指導指針や学習目標を具体的に示し、生徒の主体的な学習参加を促進することができたか。	6	41	1	0	97.9%	97.9 %
② 生徒の体験や思考に沿った学習指導を行い、学習への集中度を高め、理解力を向上させることができたか。	9	34	3	1	91.5%	95.7 %
③ 各科目の学習の仕方、要点、面白さを示し、学習姿勢を整えさせ、学習意欲を醸成することができたか。	8	36	4	0	91.7%	91.3 %
④ 特別活動の指導指針や活動目標を具体的に示し、生徒の主体的な活動参加を促進することができたか。	3	26	5	1	82.9%	93.5 %

2 平成24年度重点実施項目に基づいた評価と結果について

教育方針に基づいた重点実施項目について、下記の4つの項目で昨年と同様に実施し、その結果をまとめた。評価は、全教職員による自己評価を行った。また、『達成度』としては上記の教育方針の評価と同じく「A～Dの数値」で表してその結果をまとめた。

(1) 評価の方法

それぞれの目標についての『達成度』として「A～Dの数値」で表した。また、A：良い・達成できた、B：概ね良い・ほぼ達成できた割合をパーセントで表した。

A：良い・達成できた・そう思う	B：概ね良い・ほぼ達成できた。大体そう思う
C：あまり良くない・あまり達成できなかった。	D：良くない・達成できなかった。そう思わない。

(2) 評価結果

この結果を下記の表にまとめた。

平成24年度重点実施項目 別表3

(3) まとめ

本年度の重点目標として、①社会に通じる人間力を育成する。②キャリア教育を推進する。③特別支援教育を活用した教育活動を実践する。の3目標で臨んだ。下表のとおり、キャリア教育を推進する。については、進路指導部・学年部・農場部の連携により、産官学の連携事業などで地域とともに実践活動を行い、大なる成果を上げ教員の評価は、96.9%が達成できたと評価した。社会に通じる人間力の育成については、87.1%の評価で、コミュニケーション能力の育成や基本的な生活習慣の確立面で高評価であった。特に、遅刻指導の取組みで昨年比マイナス約500名となり、生徒指導部と学年が一体となり指導した成果といえる。特別支援教育を活用した教育活動を実践する。については、計画的な会議設定により共通理解を図りながら該当生徒の指導を行うことができた。改善策として、①においては、個別指導の徹底、部活動、教科クラブ、資格取得などへの積極的な参加の呼びかけ。②においては、組織による一貫した指導の構築。③については、個別指導計画の充実・支援ツールを利用した創意工夫による授業展開等が考えられる。

【教育基本方針に基づいた重点実施項目のまとめ】

教育基本方針に基づいた重点実施項目	A	B	C	D	達成できた (A+B) %
① 社会に通じる人間力を育成する	18	110	18	1	87.1%
② キャリア教育を推進する	16	15	0	1	96.9%
③ 特別支援教育を活用した教育活動を実践する	10	76	11	1	87.8%

3 平成24年度 生徒による自己評価及び学校評価について

本校生徒全員に、アンケート方式で自己評価と学校全体の取組みの評価を実施した。自己評価は、学習活動や学校生活に関すること、学校評価は学科の学習とその取り組み、学校生活・施設、安全教育について評価を行った。その結果を『学校の満足度』として「パーセント数値」で表した。

(1) 評価の方法

それぞれの目標についての『達成度』として「A～Dの数値」で表した。

A：良い・達成できた、B：概ね良い・ほぼ達成できた割合をパーセントで表した。

A：良い・達成できた・そう思う	B：概ね良い・ほぼ達成できた。大体そう思う
C：あまり良くない・あまり達成できなかった。	D：良くない・達成できなかった。そう思わない。

(2) 評価結果

- ① 平成24年度 1学年・生徒による自己評価及び学校評価表・・・別表6の1
- ② 平成24年度 2学年・生徒による自己評価及び学校評価表・・・別表6の2
- ④ 平成24年度 3学年・生徒による自己評価及び学校評価表・・・別表6の3

(3) まとめ

生徒は、学校生活に満足できているようで、過去最高の満足度 85.5%であった。学校への満足度が高かった項目は、まじめに学習に取り組んでいるかについては、80.0%で、落ち着いて授業に取り組んでいることが分かる。校則が守られていることについては、83.7%であった。定期的な服装指導により違反者は減少傾向にあり、校則を守ろうという意識が高まっている。挨拶をきちんとできるが 92.0%で昨年より僅かに向上したが。保護者や教職員の意見では、あいさつがきちんとできないとする者が多く次年度の大きな課題である。

評価の低い項目では、授業・実習での発言や発表、議論ができていないこと 45.3%、平素から家庭学習に取り組んでいる 25.7%などである。次年度は、学習目標が達成できるように家庭学習の取組みを含めて対策や指導が必要になってくる。その中で基礎学力の定着の取組みとして、来年度マナトレを導入する。国語・英語・数学の基礎力をつけ、進学後の進路保障の一助としたい。

学校の規律・校則が守られているかどうかは、昨年度が 81.6%、今年度は 83.3%と上昇している。その理由として、学校全体での服装指導や遅刻指導の成果といえる。生徒会・農業クラブ・家庭クラブの活動については、昨年度の 82.5%から 78.7%へマイナス 3.8ポイントとなった。農業クラブは、全国大会で6人の入賞者を出すなど成果を上げたが、家庭クラブで目立った結果がなかったものと察せられる。

学校満足度は、下表のとおりで、徐々に上昇し 85.8%となった。地域連携や課題研究さらには、1年からのキャリア教育の成果といえる。また、3年生は、学校生活全般において高い評価であり、学習・部活動・生徒会・農業クラブ・家庭クラブ等で積極的に取り組み、生き生きとした学校生活が過ごせたといえる。農業を学ぶことにより正しいものの見方考え方が定着したためと思われる。これらのことから、3年間で人材育成を図ることを念頭に年次ごとの指導計画を立て、生徒自ら意欲的に取り組めるように学科・学年で検討し、共通理解により指導を行う必要がある。

【学校満足度（生徒自己評価より）】

年度	H21	H22	H23	H24
満足度	82.7%	79.0%	80.3%	85.5%

【部活動所属者数】

年度	H21	H22	H23	H24
部員数	365名(84.1%)	323名(78.8%)	325名(76.8%)	376名(87.5%)
1年	83.9%	70.1%	79.4%	86.8%
2年	82.4%	83.9%	78.4%	85.2%
3年	86.1%	82.4%	72.7%	85.0%

4. 平成24年度 保護者による自己評価及び学校評価について

保護者の学校評価は、全保護者を対象に実施した。その内容は「学習活動、生活指導、行事、施設設備の充実、PTA 活動、安全管理、学校生活」であった。実験実習を通じた体験活動、各学科の特色を生かした取組み、命を育てることを通して社会で生きる力を育成、農業祭への取組み等で98%～99%の高い評価であった。また、服装頭髪指導を中心とした生活指導についても93%の評価であった。予習や課題などの家庭学習指導については、昨年が82%、今年度は83%の評価をいただきほぼ同数値となった。しかし、「予習や課題などの家庭学習を充分行っているか」という質問に対しては、満足度は59%であった。昨年の55%よりわずか4ポイントアップであった。このことから、本校生徒の課題は家庭での学習ができておらず、大きな課題であることが分かる。

そこで、教務部が中心となり、家庭学習状況を調査しながら学力の向上と家庭学習の充実をめざしている。この調査は1期末試験前の1週間と中間試験や期末試験等がまったくない10月下旬の1週間について、全校生を対象として朝食をとっているかどうかも含めた家庭学習状況を調査し、改善に取り組んだ。本校において、各学年ごとに「学力」向上に向けた取組みを強化するとともに、家庭学習の充実にも繋がる取組みを実施したいと考え、23年度に引き続き24年度も漢字検定・農業技術検定・資格取得強化を取入れた。徐々に家庭学習に取り組む生徒は増加しつつある。しかし、家庭学習時間の増加には直接結びついていない。来年度、国語・英語・数学でマナトレを導入する。改善となり、進路保障の一助としたい。

5 平成24年度 PTA 評議員会における学校評価について

平成25年2月19日(火)PTA 評議員会を開催し、学校からPTA 評議員の皆様へ学校の現状・取組み・生徒及び保護者による自己評価や学校評価の結果等について報告を行った。

(1) 総務部

- ① 行事の計画立案を早めに行い、ほぼ円滑に行事を実施できた。
- ② 定期的な月報の発行により、保護者へ情報発信ができた。また、メールシステムにより保護者への周知徹底を図ることができた。
- ③ 学校側からの積極的な情報発信のために、分掌や部活動の担当者によるホームページの充実をさらに進める必要がある。課題として、記事の整理が上げられた。
- ④ 80周年記念事業実行委員会が立ち上がり寄付依頼も開始となり、本格的に動き出した。

(2) 教務部

- ① 昨年に比較し、遅刻が激減した。次年度は、欠席日数を減らすようにしたい。
- ② 漢字検定52名合格で、昨年とほぼ同数となった。農業技術検定では、82名合格し昨年よりプラス7名となった。
- ③ 今年度は、観点別評価を取入れた教務規定を検討した。
- ④ 今年度は、例年になく志願者が多くなった。日頃の教育活動、体験入学、ホームページの充実、高校説明会、テレビ放映などのあらゆる教育活動の結果である。
- ⑤ 教員の研究授業は、予定どおり実施した。公開授業習慣を年間2回実施したが、参加者が少なく課題といえる。
- ⑥ 授業の始めと終わりに分離礼を全校で実施した。けじめがつき好評であった。

(3) 進路指導部

- ① ジョブカフェしまねのカウンセラーを学期に1回、年間3回招へいしホームルーム活動を行い成果を上げた。
- ② 1年生の進路検討会を本年初めて行った。生徒理解ならびに進路指導の一助となった。

- ③ 外部業者による進路ガイダンスを1・3年生には、それぞれ1回、2年生には、2回行った。3年生には、進路別集会を行い今後の指針を示した。
- ④ 系統的な面接指導・小論文指導を実施した。
- ⑤ オープンキャンパスの参加については、生徒に任せているが、参加した生徒は、進路決定に有益な情報を得ることができた。
- ⑥ チーム力アップの取組みとして、小論文指導研修・面接指導研修を行ったが、それぞれ1回の研修で十分とはいえなかった。
- ⑦ 進路指導部主催の各種テストを計画通り実施した。特に、基礎力診断テストは、実施後生徒向けの進路講演会、教員向けの進路研修会も行い効果的な活用ができた。

(4) 生徒指導

- ① 身だしなみの向上について、全体的によくなった。
- ② 服装・頭髪指導の追指導生徒が減少した。5月7名、6月4名、10月7名、11月7名、1月3名。
- ③ 服装・頭髪指導は、集会や授業、あいさつ運動時に行ったが、ほとんど注意をすることがなくなった。
- ④ あいさつ運動は、生徒会執行部・風紀委員会の活動として定着してきた。しかし、声が小さい、会釈とともに、立ち止まって、などのレベルアップが必要である。
- ⑤ 遅刻指導の効果が現れ、数字は激減した。指導該当者が限られており、改善のために個別指導が大切である。
- ⑥ 自転車マナーアップの向上について、交通自治委員会を中心に積極的な街頭活動を展開した。
- ⑦ 合羽点検・街頭指導を強化した。改善されているが、一部の生徒で傘さしがみられ、継続的な指導が必要である。
- ⑧ 駐輪場の清掃を交通自治委員会で実施した。
- ⑨ 問題行動の発生は、2件であった。昨年より8件減少した。

6 平成24年度学校評議員による学校評価について

平成25年2月19日(火)に学校評議員会を開催し、24年度の学校評価について生徒の評価・保護者の評価・出雲農林を示す数値による報告を行った。その説明を元に学校評議員5名による評価をしていただいた。その結果、重点目標への校務分掌の取組み。本校の特色を生かした取組み。外部への情報提供。生徒会・農業クラブ・家庭クラブの活動。等で良い、概ね良いの評価を得た。特に、地域に根ざした教育活動、農業の専門高校の特色を生かした活動(ハマボウフウの増殖、介護福祉施設の花壇造成・樹木管理等)に対し、敬意を表する。今後もしっかり継続してほしい。また、地域や学校の実情に応じた運営により、大きな成果を上げていると高く評価します。などの意見をいただいた。課題として、農業の専門高校として、就農者を増やしてほしい。部活動の取組みを活発にしてほしい。の2点が上げられた。

V まとめ

本校の生徒は、学校生活において生き生きと明るく元気に活動しており、ほとんどの生徒が学校生活に満足している。学習においては、落ち着いた態度と姿勢で望み、教室や廊下、農場、運動場ともきれいに整備されており、恵まれた学習環境にある。その中で、しっかりとした基礎学力と座学や実験実習を中心とした幅広い体験学習をすることで、実践力を身につけて、自己の目標や可能性を見つけることのできる指導をしていきたい。

本年の大きな課題として、基礎学力の定着、家庭学習の強化が例年通り上げられた。数字的には、家庭学習時間の満足度は上昇しているものの、満足度50%台では、向上したとはいえない。そこで、次年度国語・数学・英語の基礎力アップのマナトレを導入する。進路保障の取組みとして、成果を期待したい。

本校は、生徒が学力をつけ、自己の目標をもって意欲的、主体的に取り組み、進路実現を可能にできる学校を目指している。そのためには、学校の取り組みを教職員、生徒、保護者の立場から適切な評価を行い、さらには、外部の評価者として学校評議員による学校評議員会、PTA 評議員会等の評価を通して積極的な意見をいただき、常に検証と改善を行いながら、開かれた活力のある学校を目指していきたい。